

# ※TYLO サウナヒーター各機種共通・重要事項

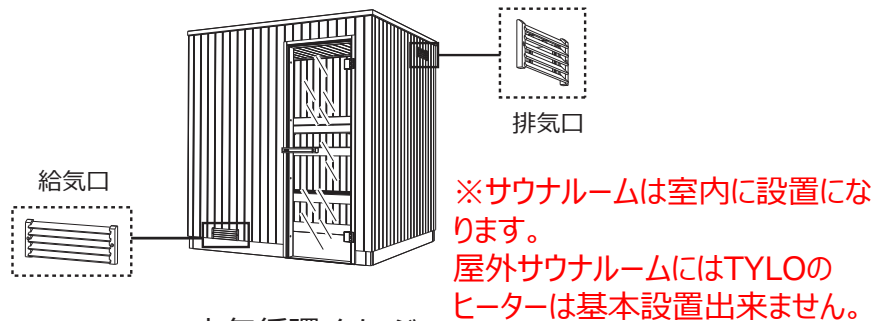
TYLO 社のサウナヒーターは全機種において、機器本体内蔵の温度センサーが 47℃以上を感知すると自動的に電源が落ちる仕組みで安全性を高めています。その為、TYLO 社の純正サウナユニットは予めサウナ室内に自然給・排気口が設けられていて使用中は絶えず空気を循環して使用するようになっています。建築でサウナルームを制作し TYLO 社のサウナヒーターのみを設置する場合も同じように給気口と排気口を設置して空気を循環させて使用する必要があります。



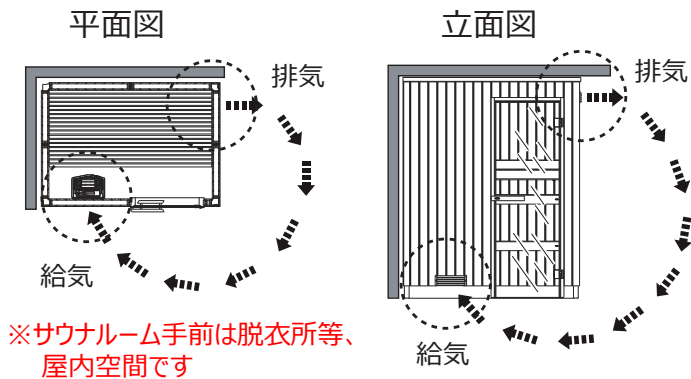
空気の換気・循環が出来ないとサウナヒーターが正常に動かず機械が途中で止まってしまい使用する事が出来ません。

(空気の循環が出来ないと機械の故障の原因になり保証も対象外とさせていただきます)

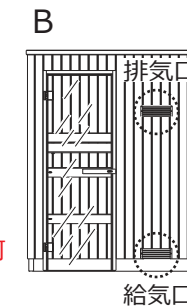
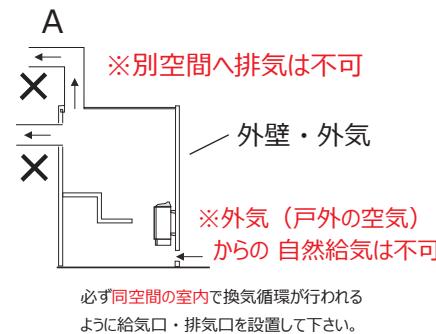
TYLO 社の純正サウナユニットの換気口の位置



空気循環イメージ

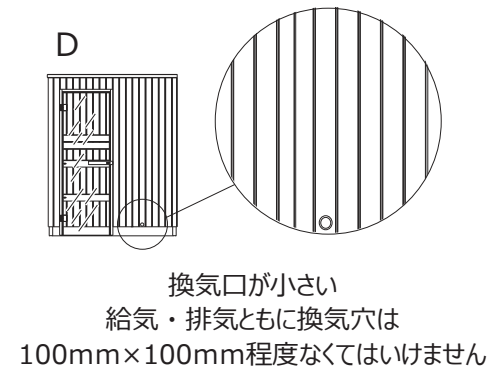
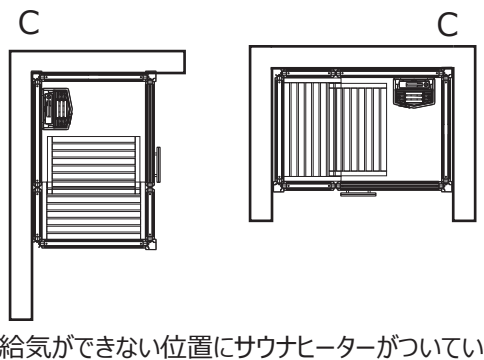


× な設置例 A・B・C・D



※給気口と排気口は対角部の離れた場所に設置しなくてはなりません。このケースだとサウナ室内の空気が循環せずにショートサーキットを起こしてサウナヒーターが止まってしまいます。

※サウナ小屋やトレーラーハウスに設置の場合は前室を設ける等、工夫が必要になります。

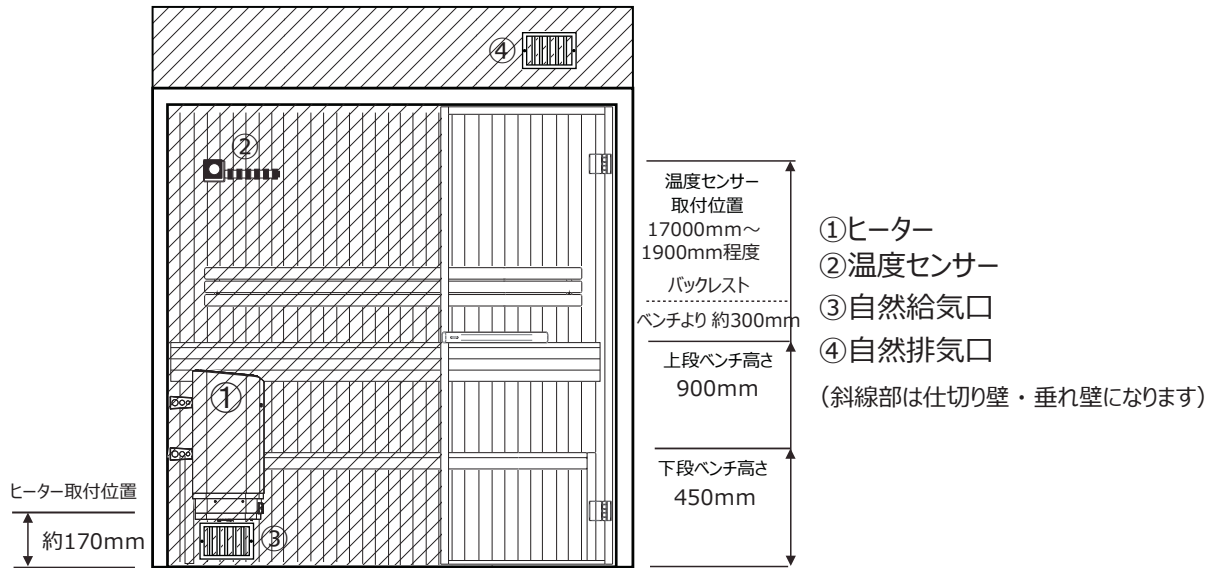


いずれかの方法で給気口・排気口を設置してください、給気口はサウナヒーター真下に設置して排気口はその対角部の出来る限り距離を取って空気が循環対流するようにして設置して下さい。真下に設置出来ない場合は横からも給気がとれます。その際は給気口に近い位置にヒーターを設置してください。

※サウナ専用の漏電ブレーカーを設置してください。

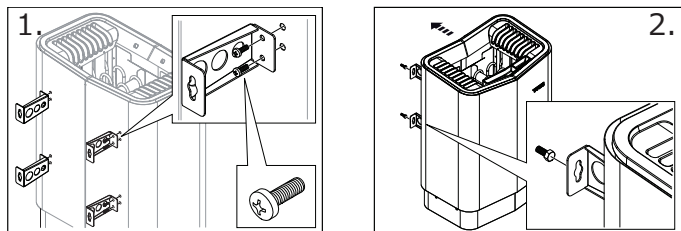


## 各種取付設置例



**※サウナ専用の漏電ブレーカーを設置してください。**

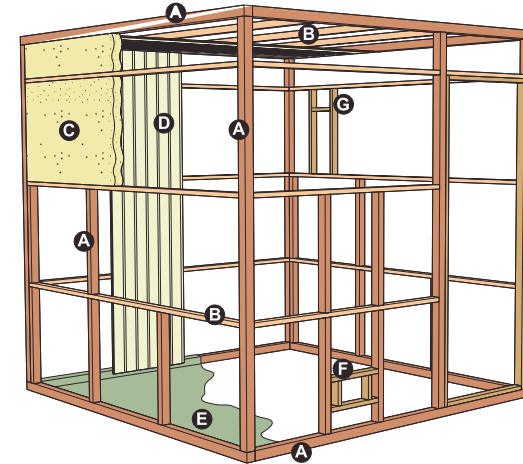
## サウナヒーターの取付け方



6KW以上のヒーターにはヒーターの足を付けて床置き型にすることも出来ます。

※ヒーターの設置個所、給排気の位置などご不明な点等ございましたら、お気軽に弊社までご相談ください。

## サウナルームの作り方



- A = フレームは垂木や 2×4 材で施工
- B = 補強材
- C = 断熱材 50mm 程度 (壁と天井全て)  
※断熱材・グラスウール・ウレタン等
- D = 室内仕上材 (アスペン・スプルス・レッドシダー等)
- E = フローリング・タイル・クッションフロア  
※床付近は高温にはなりません。
- F = サウナヒーター真下部分・給気口 100φ程度
- G = 上部・排気口 100φ程度
- ベンチ = 下段目 H450mm  
上段目 H900mm

**※Cの断熱材とF・Gの給排気口は必ず設置して下さい**